

目的 ビルダール配合の異なる3種の配合洗剤を用いた繰り返し洗浄過程で、被洗物に残存するヨゴレ有無が、配合FBAの増白効果に及ぼす影響について、比較検討した。

方法 洗剤：A洗剤はJIS指標洗剤、STPP17%。C洗剤，D洗剤はAと同じ配合系で、C；STPP 0%、D；STPP 8.5%、ゼオライト 8.5%。試料布：④着用による残留ヨゴレを含む試料布として、着用-洗たく12サイクル後のバンドルテスト衣料のうち紳士肌着・ワイシャツ。ヨゴレを含まない試料布として、⑥バンドルテスト衣料と同じ繊維組成の未増白布(綿100%メリヤス、ポリエステル65%/綿35%混紡ブロード)および③バンドルテスト用原衣料(増白布)を使用した。洗浄および増白効果の測定：バンドルテスト終了衣料④では、キセノンデジタル測色色差計算機によりIf値・-b値を測定した。またヨゴレを含まない試料布⑥・③では、ターゲットメータでの繰り返しモデル洗浄を12回行い、1, 4, 8, 12回後のIf値・-b値を測定した。

結果 ④ヨゴレを含む系：If値・-b値について、肌着のC洗剤はA洗剤より明らかに低く、ワイシャツではA洗剤とC洗剤の差はみられない。またいずれの衣料ともD洗剤はA洗剤よりわずかに高い値を示した。ヨゴレを含まない系：⑥未増白布のIf値・-b値は、繰り返しモデル洗浄系において8回まで上昇後12回ではわずかに低下するが、③の増白布のIf値は12回まで徐々に上昇を続け、-b値はほとんど変化しない。洗剤別では、綿メリヤスでヨゴレを含む系と異なりC洗剤，D洗剤はA洗剤よりすぐれ、混紡布では洗剤間の差はほとんどない。一般にヨゴレの残存する衣料の場合、残存しない場合に比較してIf値・-b値が低くなり、ヨゴレ残存が増白効果を低下させることが明らかとなった。